

定期巡回・随時対応サービス自己評価・外部評価表 自己評価日:令和7年2月7日 外部評価日:令和7年2月12日 機関名 手稲区第2地域包括支援センター

タイトル	項目番号	項目	自己評価				コメント	外部評価コメント
			実施状況					
			できている	ほぼできている	ができていないこと	全くできていない		
I 構造評価 (Structure) [適切な事業運営]								
(1) 理念の明確化								
サービスの特徴を踏まえた理念の明確化	1	当該サービスの特徴である「利用者等の在宅生活の継続」と「心身の機能の維持回復」を実現するため、事業所独自の理念を掲げている	○				24時間切れ目ない在宅サービスを行い、又事業所名でもある「結(ゆい)」をテーマに、人と人とのつながりを大切にしながら、地域社会と共に暮らしを支えていく、という事業所独自の理念を掲げている。(昨年と同様)	適切に評価されている。
(2) 適切な人材の育成								
専門技術の向上のための取り組み	2	管理者と職員は、当該サービスの特徴および事業所の理念について、その内容を十分に認識している	○				理念はホームページにも掲載し職員の認識している。	適切に評価されている。
	3	運営者は、専門技術(アセスメント、随時対応時のオペレーターの判断能力など)の向上のため、職員を育成するための具体的な仕組みの構築や、法人内外の研修を受ける機会等を確保している		○			法人内では研修を定期的にミーティングを行っている。外部の研修はリモートによるスマケアサポート開催の研修に参加している。	適切に評価されている。
	4	管理者は、サービス提供時の職員の配置等を検討する際、職員の能力が最大限に発揮され、能力開発が促されるよう配慮している		○			ほぼ一定の標準水準のレベルでのサービス展開ができるよう、少数精鋭のスタッフで対応している。(昨年と同様)	適切に評価されている。
介護職・看護職間の相互理解を深めるための機会の確保	5	介護職・看護職の間で、利用者等の特性・状況に係る相互の理解・認識の共有のための機会が、十分に確保されている	○				利用者の近況の記録、看護からの毎月の報告書などで共有の機会が確保できている。又、ICTを利用し利用者の情報を共有している。	適切に評価されている。

(3) 適切な組織体制の構築							
組織マネジメントの取り組み	6	利用者等の特性に応じた柔軟なサービスを提供するため、最適且つ柔軟な人材配置(業務・シフトの工夫)を行っている	○			ICTを最大限に利用し、又利用者の日々の状態を見ながらその日の支援の入り方、シフト作りを行っている。	適切に評価されている。
介護・医療連携推進会議で得られた意見等の適切な反映	7	介護・医療連携推進会議を適時適切に開催すると共に、得られた要望、助言等(サービスの過少供給に対する指摘、改善策の提案等)を、サービスの提供等に適切に反映させている		○		法人内では研修を適時適切にミーティングを行っている。得られた要望、助言はサービスの反映に努めている。	適切に評価されている。
(4) 適切な情報提供・共有のための基盤整備							
利用者等の状況に係る情報の随時更新・共有のための環境整備	8	利用者等の状況について、(個人情報管理に配慮した上で)必要に応じて関係者間で迅速に共有できるよう工夫されている		○		ICTを利用した記録で、現在の利用者の近況を看護に伝え、看護からは月に一度看護報告書もらい、共有のための機会が確保できている。緊急を要する際には電話で連絡を取り合っている。	適切に評価されている。
(5) 安全管理の徹底							
職員の安全管理	9	サービス提供に係る職員の安全確保や災害時の緊急体制の構築等のため、事業所においてその具体的な対策が講じられている(交通安全、夜間訪問時の防犯対策、災害時対応等)		○		職員の安全が確保できるよう、緊急時にはすぐに連絡が取り合える体制になっている。なお、災害時の行政との連携をどうするかが今後の課題である。	適切に評価されている。
利用者等に係る安全管理	10	事業所において、利用者等に係る個人情報の適切な取り扱いと保護についての具体的な工夫が講じられているとともに、管理者や職員において共有されている	○			同意書を頂き個人情報を適切に取り扱うように管理されており、管理者、職員間で研修なども行い共有されている。	適切に評価されている。

II 過程評価 (Process)								
1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供								
(1) 利用者等の状況把握及びアセスメントに基づく計画の作成								
利用者等の24時間の暮らし全体に着目した、介護・看護両面からのアセスメントの実施	11	利用者等の一日の生活リズムに着目した、アセスメントが提案されている		○			毎支援時に記録を記載し、普段の様子やそれ以外で気になる点や状態があれば職員間でアセスメントを行いリモートにて話し合いの場を設けることもある。	適切に評価されている。
	12	介護・看護の両面からのアセスメントが適切に実施され、両者の共有、つき合わせ等が行われている	○				ICTを利用した記録、書面での記録にて情報を共有。状態に変化があった際には、その日のうちに電話連絡を取り合いアセスメントを行っている。	適切に評価されている。
利用者の心身の機能の維持回復や在宅生活の継続に軸足を置いた「未来志向型」の計画の作成	13	利用者の心身機能の維持回復に軸足を置いた計画の作成が志向されている		○			ケアマネジャーのプランに則った自立支援ができるよう計画を立案している。(昨年同様)	適切に評価されている。
	14	重度化しても医療依存度を高め過ぎないように、利用者の今後の変化を予測し、先を見越した適切なリスク管理を実現するための、「未来志向型」の計画の作成が志向されている		○			日々の支援の中で利用者の今後の変化を予測して支援できるよう計画作成を行っている。	適切に評価されている。
(2) 利用者等の状況変化への柔軟な対応と計画の見直し								
計画上のサービス提供日時に限定されない、必要に応じた柔軟な定期巡回サービスの提供	15	計画上のサービス提供日時以外であっても、利用者等の状況に変化が生じた場合は、必要に応じて新たに定期巡回・随時対応サービスの提供日時を設定するなど、柔軟な運営に努めている	○				利用者に変化が生じた場合は、定期訪問の他に、緊急時・必要に応じて随時対応を実施し、より利用者寄り添った柔軟な運営に努めている。	適切に評価されている。
継続したモニタリングを通じた利用者等の状況変化の早期把握と、計画への適宜反映	16	サービス提供を通じた、継続的なモニタリングによる、利用者等の状況変化の早期把握と、計画への適宜反映が行われている	○				毎月、各利用者様のモニタリングを行い、ケアマネジャーに報告を行っている。又ICTを利用し最新の情報を発信し共有する事で、計画の反映に対応している。	適切に評価されている。

(3) 介護職・看護職の協働による一体的なサービスの提供								
介護職と看護職の相互の専門性を生かした柔軟なサービスの提供	17	より効率的・効果的なサービス提供を実現するため、介護職、看護職のそれぞれの専門性を活かした役割分担が行われている	○				介護、看護の役割分担を行いサービス提供を実施している。(昨年同様)	適切に評価されている。
看護職によるサービス提供に関する指導、助言	18	看護職から介護職に対し、疾病予防・病状の予後予測・心身の機能の維持回復などの観点から、指導、助言が行われている	○				気になる変化があった際にはすぐに看護に相談し指導、助言等の連絡をもらう事が出来ている。	適切に評価されている。
(4) 利用者等との情報及び意識の共有								
利用者等に対する当該サービスの趣旨及び特徴等についての十分な情報提供	19	サービスの開始前に、利用者等に本サービスが「利用者等の在宅生活の継続」と「心身の機能の維持回復」を実現するためのサービスであり、訪問サービスは、その趣旨に沿って行われるアセスメントに基づき提供されることについて、十分な情報提供・説明が行われている	○				支援開始前に必ず利用者本人、ご家族に面談し、十分な情報提供、定期巡回随時対応型サービスの説明を懇切丁寧に行っている。	適切に評価されている。
利用者等との目標及び計画の共有と、適時適切な情報の提供	20	作成した計画の目標及びその内容について、利用者等に十分な説明を行うなど、共通の認識を得るための努力がされている	○				作成した計画は利用者説明し、同意を得た上でサービスを開始している。又、スタッフ間で共通認識できるよう適宜リモートミーティングを実施している。	適切に評価されている。
	21	利用者の状況の変化や、それに伴うサービス提供の変化等について、家族等への適時・適切な報告・相談等が行われている	○				状況の変化、サービス提供の変化があった際には随時、家族に報告、相談を行っている。また、リアルタイムの本人の状況をICTの記録にて閲覧できるような体制をとっている。	適切に評価されている。

2. 多職種連携に基づいた包括的・継続的マネジメント							
(1) 共同ケアマネジメントの実践							
利用者等の状況の変化についての、ケアマネジャーとの適切な情報共有及びケアプランへの積極的な提案	22	ケアマネジャーとの間で、利用者へのサービス提供状況、心身の機能の変化、周辺環境の変化等に係る情報が共有され、サービスの提供日時等が共同で決められている	○			毎月のモニタリングの実施、報告を行い、それ以外でも変化があった際には状況に応じて電話での情報共有を行っている。	適切に評価されている。
	23	計画の目標達成のために、必要に応じて、ケアプランへの積極的な提案(地域内のフォーマル・インフォーマルサービスの活用等を含む)が行われている	○			変化、状況に応じて相談、提案などを行っている。	適切に評価されている。
定期的なアセスメント結果や目標の達成状況等に関する、多職種への積極的な情報提供	24	サービス担当者会議等の場を通じて、利用者等の状況や計画目標の達成状況について、多職種への情報提供が行われている	○			定期的な担当者会議の開催により情報提供が行われている。	適切に評価されている。
利用者の在宅生活の継続に必要となる、利用者等に対する包括的なサポートについての、多職種による検討	25	利用者の在宅生活の継続に必要となる、包括的なサポート（保険外サービス、インフォーマルケア等の活用を含む）について、必要に応じて多職種による検討が行われている（※任意評価項目）					
	26	病院・施設への入院・入所、及び病院・施設からの退院・退所の際などに、切れ目のない介護・看護サービスを提供するために、必要に応じて多職種による検討や情報の共有が行われている（※任意評価項目）					

多職種による効果的な役割分担及び連携に係る検討と、必要に応じた関係者等への積極的な提案	27	地域における利用者の在宅生活の継続に必要なとなる、包括的なサポート体制を構築するため、多職種による効果的な役割分担や連携方策等について検討し、共有がされている（※任意評価項目）						
---------------------------------------------	----	------------------------------------------------------------------------------------------	--	--	--	--	--	--

3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画

(1) 地域への積極的な情報発信及び提案

介護・医療連携推進会議の記録や、サービスの概要及び効果等の、地域に向けた積極的な情報の発信	28	介護・医療連携推進会議の記録について、誰でも見ることのできるような方法での情報発信が、迅速に行われている	○				連携推進会議を行った際はホームページにて記録の掲載をし、情報発信を行っている。	適切に評価されている。
	29	当該サービスの概要や効果等についての、地域における正しい理解を広めるため、積極的な広報周知が行われている	○				ホームページ、ブログ、パンフレット作成し理解を広げるために積極的に周知活動を行っている。	適切に評価されている。

(2) まちづくりへの参画

行政の地域包括ケアシステム構築に係る方針や計画の理解	30	行政が介護保険事業計画等で掲げている、地域包括ケアシステムの構築方針や計画の内容等について十分に理解している	○				在宅の中心的なサービスを担うこと等を常に意識している。(昨年同様)	適切に評価されている。
サービス提供における、地域への展開	31	サービスの提供エリアについて、特定の建物等に限定せず、地域へ広く展開していくことが志向されている	○				札幌市西区と手稲区内では唯一、建物内への訪問は一切行っておらず、地域へのみの訪問を行っている。	適切に評価されている。
安心して暮らせるまちづくりに向けた、積極的な課題提起、改善策の提案等	32	当該サービスの提供等を通じて得た情報や知見、多様な関係者とのネットワーク等を活用し、介護・看護の観点から、まちづくりに係る問題認識を広い関係者間で共有し、必要に応じて具体的な課題提起、改善策の提案等（保険外サービスやインフォーマルサービスの開発・活用等）が行われている（※任意評価項目）						

Ⅲ 結果評価 (Outcome)

サービス導入後の利用者の変化	33	サービスの導入により、利用者ごとの計画目標の達成が図られている		○			サービスの導入により在宅生活を送れている。	適切に評価されている。
在宅生活の継続に対する安心感	34	サービスの導入により、利用者等において、在宅生活の継続に対する安心感が得られている	○				サービス導入により、本人・ご家族様より在宅生活が送れるようになったなどの声を頂いている。	適切に評価されている。

合計	21	9	0	0
昨年	21	9	0	0